

「がんになりにくい体をつくる」ということ 大学病院医師の立場から

京都大学医学部附属病院 呼吸器外科
佐藤雅昭



2004年 アメリカ胸部外科学会(トロント)

私の日常診療

- ▶ 肺癌などの患者さんの手術を中心とした治療
(標準治療＝手術、化学療法、放射線療法)
- ▶ 肺移植(癌以外の悪い肺を取り替える)
 - →大量の免疫抑制剤(拒絶を抑えるため)

「がんになりにくい体をつくる」ということ 大学病院医師の立場から(本日のメニュー)

- ▶ 「がんになりにくい体」とは？
- ▶ もうがんになってしまった人は？
- ▶ がんと向き合うのは患者さん自身
- ▶ がん予防・治療のこれから



「がんになりにくい体をつくる」ということ 大学病院医師の立場から(本日のメニュー)

- ▶ 「がんになりにくい体」とは？
- ▶ もうがんになってしまった人は？
- ▶ がんと向き合うのは患者さん自身
- ▶ がん予防・治療のこれから



「がんになりにくい体」なんてあるの？

ある

がんになりにくい体となりやすい体

- ▶ 免疫 - 移植患者の癌発症率
(約30倍)
- ▶ 環境 - 喫煙、発ガン物質
- ▶ 複数の癌に次々かかる患者さん

(大学病院の医師)一般の医者代表

- ▶ こうした「がんになりやすい体」に対して何かしているか？（基本的にNo, せいぜい禁煙指導くらい）
- ▶ 医者個人の責任？
- ▶ ガイドラインにない
- ▶ 医学部では教わらない

「免疫力」とは？

- ▶ 細菌・ウイルス・寄生虫などを排除する
- ▶ 体の中に生じた異常細胞を排除する
- ▶ 体の害にならない細菌と「共生」する一腸内細菌
- ▶ 自分自身を攻撃しない

(これがうまくいかないとき自己免疫疾患になる)

適正な免疫力・免疫反応を得る

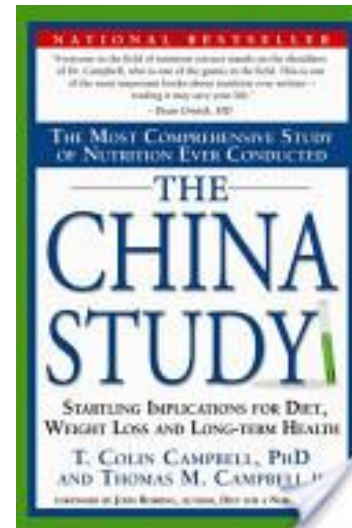
- ▶ これまで馬鹿にされていた「免疫療法」
- ▶ 確かに免疫力が癌の発生や再発を抑えている
- ▶ 世の中にある商売としての「免疫療法」には注意が必要（そんなに単純なものではない）
- ▶ 免疫力だけで、目に見える癌を完全に排除するのは簡単ではない

いろいろな理由で「免疫力」が下がる

- ▶ ストレス
- ▶ 疲労
- ▶ 交感神経の緊張状態

(2) 食事・栄養・代謝

- ▶ 日々の食生活で癌のリスクが変わる
 - ▶ ハワイに移住した日系人の大腸癌リスク上昇
 - ▶ 牛乳と乳がん
 - ▶ The china study..



食事、栄養、代謝
については疎か、

標準的
医療

手術
化学療法
放射線治療

患者
さん

先生、わたし
何を食べたら
いいですか？

何でも好きなも
のを食べたら
いいですよ。



どうやって、最新の代謝
と栄養の知識を臨床に
生かしていくか？

患者
さん



最新の
医学研究

各種疫学
データ

癌にとって代謝は
重要だ！

癌にとって
食事と栄養
は重要だ！



標準的な医療が「癌の代謝」を治療に生かす(=新薬の登場など)には、時間とお金がかかる

標準的
医療

手術
化学療法
放射線治療

患者
さん

食事・
生活習慣
の改善

最新の
医学研究

各種疫学
データ

比較的簡単に、安く、最新の医学研究の結果と疫学データを生活に生かすことができる。癌の予後改善に貢献できるかもしれない。

(2) 食事・栄養・代謝

- ▶ がん細胞の「代謝」は大きな注目を浴びている研究分野
- ▶ 「抗がん剤」も、もとは自然の生薬がほとんど
- ▶ これから新たな薬が出てくると期待できる(時間とお金がかかる)
- ▶ 「●●を摂ればがんが治る、がんにならない」というほど単純ではない

「がんになりにくい体をつくる」ということ 大学病院医師の立場から(本日のメニュー)

- ▶ 「がんになりにくい体」とは？
- ▶ **もうがんになってしまった人は？**
- ▶ がんと向き合うのは患者さん自身
- ▶ がん予防・治療のこれから



がんになってしまった人はどうする？

- ▶ 適切な治療（癌をコントロールできる可能性が最も高いと考えられる治療）を受けずに、チャンスを逃す患者が大勢いる

残念でならない

- その治療で本当によいのか？
- 都合のいい情報だけ拾ってないか？

目標

▶ がんのない状態



▶ がんはあるけれど、からだの免疫力と拮抗し

ている状態



▶ がんの勢いが免疫力を上回っている状態

がんになってしまった人はどうする？

- ▶ 自分のがんの状態と向き合う。
- ▶ 自分のがんを「コントロール(必ずしも治すという意味ではない)」するために適切な治療は何か？
- ▶ 標準治療+がんを抑えこめる/がんと付き合い合っていける体質造り

がんになってしまった人はどうする？

- ▶ いろいろ手を尽くしても、がんの勢いを押さえ込めないこともある（体力、年齢、がんの性質）
- ▶ 「絶対に治る」がん治療などない
- ▶ 永遠に生きられる人間はいない

→ 癌の有無に関わらず、限られた命をどう燃やせるか

「がんになりにくい体をつくる」ということ 大学病院医師の立場から(本日のメニュー)

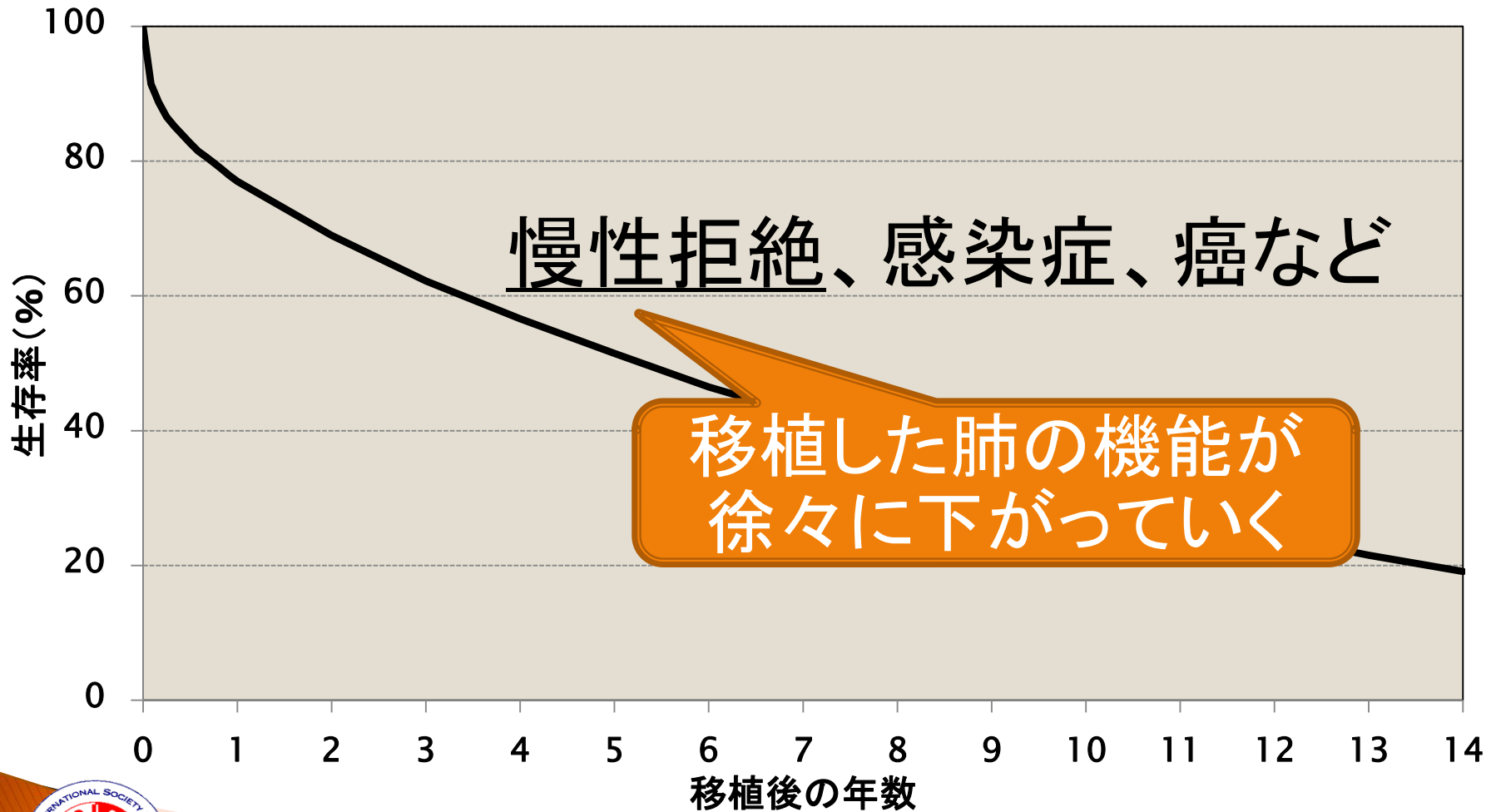
- ▶ 「がんになりにくい体」とは？
- ▶ もうがんになってしまった人は？
- ▶ **がんと向き合うのは患者さん自身**
- ▶ がん予防・治療のこれから



がんと向き合うのは患者さん自身

- ▶ 再び肺移植を例に.....
- ▶ 肺移植は、悪い肺をよい肺と取り替える、究極の治療
- ▶ しかし.....

肺移植後の生存曲線 (5年生存50%、10年生存30%)



ISHLT

肺移植には、「再肺移植」という選択肢がありうる

- ▶ 45歳女性患者。肺移植後3年で慢性拒絶になった。再移植登録をして待機。「死」をととても恐れ、入院しているほうが早く再移植が受けられると信じて半年、待ち続けたがドナーが現れず死亡。入院期間中、生活の質(QOL)は低かった

肺移植には、「再肺移植」という選択肢がありうる

- ▶ 50歳男性患者。肺移植後5年で慢性拒絶になった。そのことを患者に告げると
「先生、移植を受けてからの5年間、私は本当に充実した生活を送れましたよ。それはもう、奇跡としかいいようのない素晴らしいものでした。十分ですよ。どうせ私達は永遠に生きることなんかできないんですから。」と微笑みながら答えてくれた

自分らしく生きる、自分の時間を生きる

60歳女性、胆管癌肺転移
の患者さんの例

ドクターショッピングと癌難民

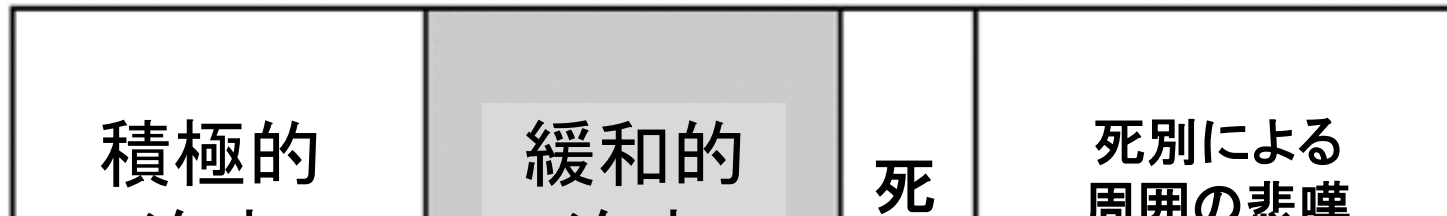
- ▶ 世の中にいろいろな「がん治療」が出回っている（保険がきくもの、きかないもの）
- ▶ 悪質なものもかなりある
- ▶ 「信じる」こと、「希望をもつ」ことは大事
しかし.....

状況を受け入れ、悪くなったときに
備えることも大事

ドクターショッピングと癌難民

- ▶ 最悪なのは、最後に信じていたものに裏切られること
- ▶ 代替療法を受ける場合、それがうまくいかなかったらどうするか、まで考える
- ▶ 標準治療をしてくれる病院と簡単に縁を切らない賢さが患者にも必要

緩和医療に対する考え方の進化



A 緩和医療 \neq 「死」のサービス



Journal of palliative and hospice care nursing 2004

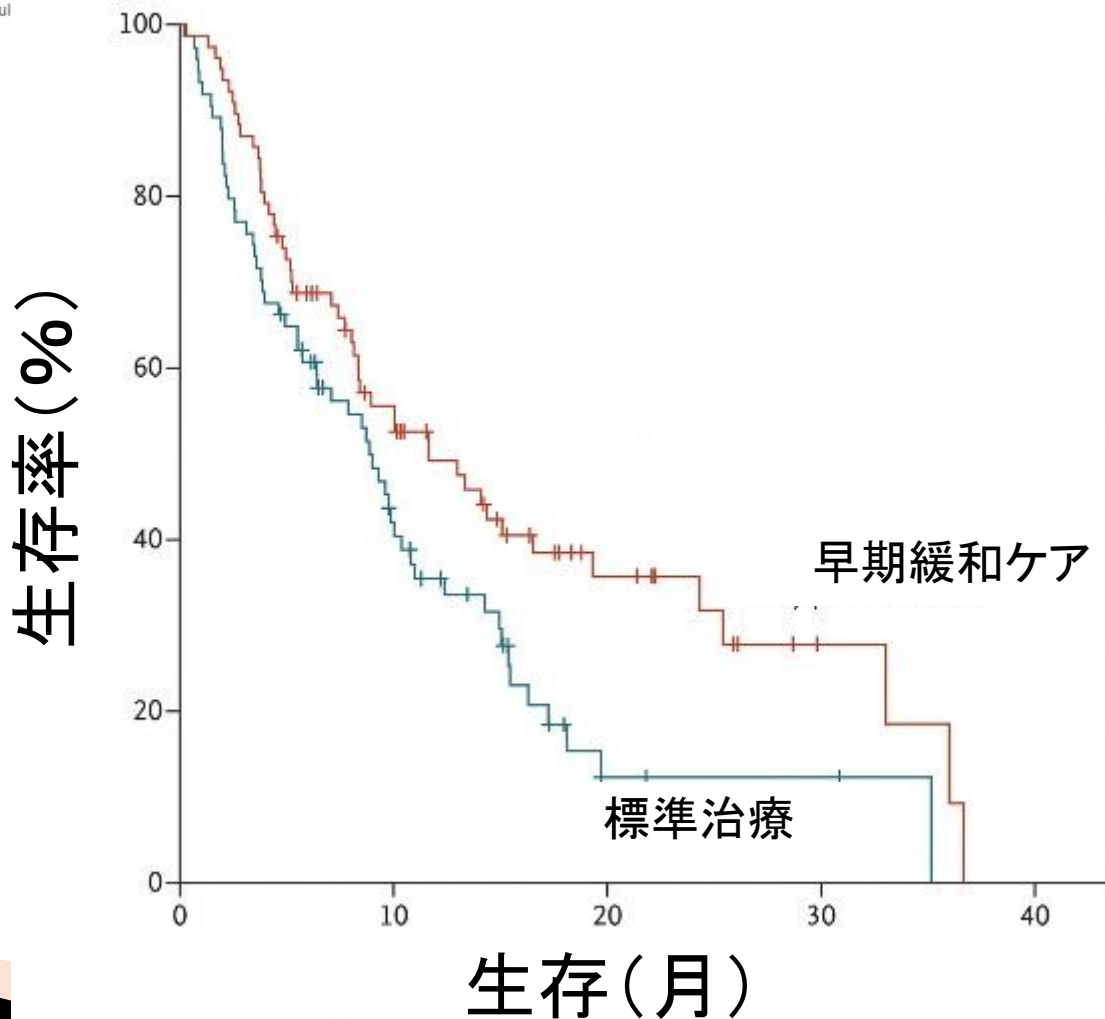


ORIGINAL ARTICLE

Early Palliative Care for Patients with Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer

Jennifer S. Temel, M.D., Joseph A. Greer, Ph.D., Alona Muzikansky, M.A., Emily R. Gallagher, R.N., M.P.H., Vicki A. Jackson, M.D., M.P.H., Constance M. Dahlin, A.P.N., Craig D. Blinderman, M.D., Jul Pirl, M.D., M.P.H., J. Andrew Billings, M.D., and Thomas J. Lynch, M.D.
N Engl J Med 2010; 363:733-742 | August 19, 2010 | DOI: 10.1056/NEJMoa1000678

転移のある非小細胞肺がん患者への早期緩和ケアによる介入



この研究に対するコメント

- ▶ 「緩和ケア」は延命あるいは治癒を目指した治療の代替（つまりこれ以上術がない場合の手段として）一般に受け止められてきたが、本来はそのような治療の補助として同時に提供されるもの（マウントサイナイ医科大学 老年緩和医療科 Dr.Meier, Dr kelley)
- ▶ ホスピスのプログラムに参加して疾患状態が改善されることはよくある（米国立癌研究所 Dr. O'Mara)

「がんになりにくい体をつくる」ということ 大学病院医師の立場から(本日のメニュー)

- ▶ 「がんになりにくい体」とは？
- ▶ もうがんになってしまった人は？
- ▶ がんと向き合うのは患者さん自身
- ▶ **がん予防・治療のこれから**



がん予防・治療のこれから

- ▶ がんに対する免疫、代謝の理解はがん治療を進歩させるだろう
- ▶ 現在の標準治療（手術・化学療法・放射線治療）と組み合わせて、より体に優しく効果的な治療が可能になるだろう

がん予防・治療のこれから

- ▶ 「がんになりにくい体づくり」の知識が広まり、国民がより健康的な生活をめざせるようになる(あえていえば、ここ20年の禁煙の広がりの延長)
- ▶ しかし、がんは無くならない。人が永遠に生きられるようになるわけではない

大切なのは、

与えられた時間を自分らしく
「生ききる」こと

貴重な時間、ご清聴ありがとうございました

